

栄養やまなし

NO 1
昭和5年7月
日 栄山栄景支部

「栄養やまなし」発刊にあたって

(社) 日本栄養士会山栄景支部長

深山 武

この度「栄養やまなし」が発行される運び
となつたことを本当に嬉しく思います。

それはこの「栄養やまなし」が、支部員お
互いに、そして支部員と支部、それから本部
と密着したことを、信じるからであり、同
時にこの発行に踏み切った運営委員等支部役
員の心根も、高く評価するからであります。

日本栄養士会は、一昨年来、組織問題に真剣
に取り組んで参りました。それは組織は素人の
エネルギーを醸成し、又そのエネルギーを最も
高率的に発動する機能の、基幹となるものであ

らからであります。

今現に、日本の栄養士のおかれてゐる業務上
の位置、引いては、それが、重大な影響を與え
てゐる。国民栄養の現状と、将来を勘案すると
き、誠に寒心に耐えないものがあります。

それに対処する責任は、現在の栄養士にある
と、云わざるを得ません。これは誠に厳しい途
であります。この責務を果すには、一人一人の
栄養士が、現実を正しく把握し、誤りのない活
動方針を策定し、目的達成のため、悲痛な覚悟
をもつて、エネルギーを蓄積し、そのエネルギ
ーを総結集し、それを最も有効に投入して、現
状を打開しなければならぬのであります。

それがためには、組織の再編成が必要であり
この一年有余、眞僉に討議され、検討されてき
たことに、意儀があることと思ひます。今日
迄は、その形態のみに捕えられ、その質的論議
に欠けていたことを、見逃す訳にはゆきません。
總ての栄養士が、(1)栄養士に対する社会的要
請を、正しく理解してゐるでしうか。

(2) それに対応する資質(実力)についてはどう考
えているでしょうか。栄養士の不平不満はあつ
ても、社会の要請に応えようとする意欲はど
うでしょうか。不平不満はあつても、それが極
めて利^フ的^な影響をもって受け止めざるを得ない
場合があるのは、私の僻見、たうか。反対に、
不平不満も怒りも難きもない人をも、しばしば
見かけます。その天下泰平振りを羨しく思うこ
とも度々です。そういう人は、栄養士という事
例私に対する社会の要請に従つて、社会におけ
る連帯責任に無意識、それ又利己的な人間像と
して、言ひ止めざるを得ません。組織人は、そ
の所属する集団の目的達成に向つて、力を併せ
て行動する。栄養士会員は、栄養士会の目的の
実現のために、一人一人の持つ力を發揮すべき
は、当然のことでありますが、組織と利欲に利
用するのではないかと勘繰られるような行動が
全くないとは云えないと考へます。以上、私が
栄養士会の仕事をしつつ、特に栄養士会の在り
方、栄養士会入会のメリワトの論議を聞く度に

こういう感をも、深くするものであります。これ
は、自力も当然負わなければならぬ責任と、
迴顧する訳ではないが、栄養士会の組織が未熟
であつたのだと思ひます。未熟の集団では避け
なことのできない情勢です。

現在、栄養士の持つ、正しい不平、不満、歎
きや怒りも、解決する途は、栄養士一人一人が
自力自身を核とした、組織の力によるより他に
途のないことを悟ることが、現状の正しい把握
であらうと思ひます。それがためには、先づ、コ
ミニエーションが必要です。

この「栄養やまなし」が、その一役を買つて
くれることを信じます。そしてその役目を果す
よう、山梨の全栄養士の限りない協力を、願つ
て止みません。



具體的な動きを育てよう

行政部会長 牛山孝彦

いともまた夏が去り、秋になりました。大自然の四季は、私たちが好むと好まざるにかかわらず、リズムをもつて巡っていきます。ところで現在の栄養士法、栄養改善法、関係法規や社会状況に就いてみると、この自然のリズムのように安定した情勢ではないことは、私達誰かが認めるべくもありません。わが栄養士会の長年の悲願となつてゐる「法改正運動」が、その足跡に迷着がみられぬのは、会員の一致団結の姿勢と、その基本となる会員個々の認識の欠如によるものといわねえ

ます。昭和五十一年度の本会の活動目標の中に「組織強化」に関する事項がみられ、すか、このことは單に言葉による表現だけでなく、また此の誰にお世話になつてゐてもなく、私達栄養士会員同志の心一つにかゝつていきます。そこで私たちが行政部の近況を説明しよう。果下の市町村関係課の栄養士、県庁ならびに各保健所の栄養士会をわけて二十名によつて、構成されていきます。行政にたずさわらるものという共通の基盤にたつて、日常行務の遂行に必要とおもわれる事柄について、隔月定例的に「研修会」を開催継続中です。そこで昨年度の活動の一端をみると、満氣

と食生活の発刊が、特記すべきこととす。これは現代の食生活と疾病の関連から、病態栄養指導の重要性が叫ばれてゐる折柄、その指針となるような具体性をもつた内容にとめたものです。この小冊子を発刊するにあつては、会員が一つの目的をもつて、これにあたるための周到な下準備や話し合い、資料の収集、内容の検討、その他医学的に確認の意味を含めての医師との連絡調整等、筆墨に表現でさばない有形無形の多くの困難や努力を経験しました。この体験を通じて学ぶところが多かつたというのが会員の反響の声でした。この一例がみられように、小さなことでも具體

的な目標をかつけて、地道に
取り組んでいくという姿勢が、

委員の組織の一員としての認

識を深めることになり、同時

に社会的評価も確保していく

ことの一助にもなるものと考

えておらうです。富士山は広

大な裾野をもっているために

日本一の高さを誇示できるの

です。私達栄養士会も、この

例にならうて会員個々の認識

と自覚のもとに、しっかりと

した基礎をかためることによ

り、一層確固とした組織体と

して、発表することに努力し

たいものです。そのために部

会あるいは分会単位のかさ

な組織活動に参加し、具体的

課題に取り組むながら、協調の

学校部会の近況
学校部会長 古屋百合子
学校栄養士は、昭和四十九年
十一月に、市町村職員より
果費負担職員に切りかえられ
るという制度の改革があり、
その呼び名も、学校栄養職員
として、教職員への仲間入り
を実現しました。
これは長い間、学校栄養士が、
自かうの子で築き上げた学校
給食の場における業務の実態
と、子供達の心身の成長うた
めに堪へた愛情、集積のあら
われ、など思いします。
私達の部会は、学校栄養職
員八十七名、市町村栄養士二
十四名、計百十七名で構成さ

れています。その中には、単独
校に勤務する者、センターに勤務
する者、教育委員会に勤務する
者と、それぞれその仕事の内
容や、若干の施設設備の差は
ありますが、献立・栄養・経
理管理、物資の購入、給食指
導、地域の食生活改善指導は
どと、仕事は極めて多岐にわ
たっています。更にその合間
には各ブロック毎の研究で食
品の見分け方、給食指導、味
の研究、肥満児の食事指導、
牛乳の汚染等、試験管を片手
に大量な活動の一方、子供達
の家庭を訪問しての食事の調
査、調理の際の水の量などき
め細かに専門職としての取
組に果敢に励んでおります。
栄養士のありあけとふりが

をみてみると 昭和三十三年

県学校栄養士会が組織され

研究 研修に要する費用は各

自が負担しておりであった。

昭和四十三年に市町村の法

令外負担金が認められ 栄養

士一人当り三千円 児童生徒

一人二円が研究費として交付

されるようになった。研究 研

修などなお一層充実してまい

りました。富山県内各町の研修

研究内容は

が元

○各ブロック毎のテーマによ

り研究資料の作成 (毎年

九ブロック県下)

○基準献立表作成 昭和四十三年

一四十五年度)

○アミノ酸のバランスを考慮

したモデル献立表の作成

(昭和五十一年度)

○各種研究会(ブロック県内県外)

等あけられさす。

研修

○栄養士のあり方(昭和四十八年度)

○職場の人間関係について

(昭和四十九年度)

○学校栄養職員の仕事について

(昭和五十一年度)

○食品検査の実態について

(昭和五十一年度)

○食品の加工工程観察

○栄養範囲にわたった研修で

栄養士の資質の向上につとめ

てまいりました。

又昨年は学校給食を根柢から

ゆるがす程の大問題として、

世論をわけさせたりシン問題で

は、必死に勉強を続け、父兄

への理解を求めると共に、添

加中止が結論づけられた後の

措置についても、全員一丸と

なつて処理にあたりました。

こうした事態の中にあつて、

子どもたちの笑顔に生きがい

を感じ、その子たちが明るく

健やかに育つて欲しいと念じ

つつ、今後の問題である、米

飯導入の問題、食器の問題、

食生活に起因する脚気、貧血

肥満、食品公害等、食品と

りまくともろの問題への解

決へと、研修に研修を重ねて

ゆくつもりです。

こうした事が、一校一名の

栄養士の実現につながること

と信じております。



公衆衛生課から

(1) 調理師法による調理師試験
を、去る七月二十七日実施
したところ、六百九十六名
が受験し、五百五十一名(七
十九・二%)が合格しました。
昭和五十一年九月一日現在
の、山梨県の調理師名簿登
録者数は、一万五百七十一人
です。

(2) 県内の栄養士免許者数は、
二千七百九十人でその中、管
理栄養士登録者は、五十人
となっています。県内に就
業している栄養士の、昭和
五十一年四月一日現在の状
況は、次のとおりです。

区分 H・C	行政		学校	病院	工場 事務所	養老 施設	料理 学校	保育 所	その他 施設	その他	計	県内就業栄養士状況結果 (昭和五十一年四月現在)
	県	市町村										
甲府	10	0	18	43	31	14	9	25	7	3	160	
日下部	1	1	15	19	3	0	0	0	4	0	43	
石和	2	2	12	10	0	0	0	1	1	0	28	
吉田	1	1	13	8	3	0	6	2	1	1	30	
大月	1	0	10	10	2	0	0	0	0	0	23	
小笠原	1	0	16	12	0	0	0	1	1	0	31	
茅野	1	0	7	2	0	0	0	1	2	1	14	
斐川	3	0	14	10	4	0	0	0	6	1	38	
合計	20	4	105	109	43	14	9	30	22	11	367 (職人)	

(3) 病院給食実施状況報告書
の内容が、一部変更になり
十月十二日に県庁八階会議
室で説明会を行います。

役員名簿

顧問

窪田 恵祐

(山梨県医師会長)

三井 三郎

(山梨県厚生部長)

参与

坂井田 祥正

(山梨県公衆衛生課長)

樋口 昭

(山梨県教育委員会保
健体育課長)

支那長 深山 武

中村 大家(行政)

牛山 孝友(甲府)

副支那長 長田 正五

監 事

金子 義寛(目下郡)

事務局長 藤 卷 一雄

橋田 好枝(学校)

大石 正子(石和)

運営委員

小沢 竜子(医療)

夏川 俊二(医療)

佐藤 文子(行政)

中込 文江()

部長

秋山 千恵子(小笠原)

深沢 清子()

医療 根津 仙之助

山本 順子(荏崎)

長田 正五(一般)

一般 森田 園子

佐藤 文子(吉田)

深山 武(養成)

養成 深山 武

角田 明子(大月)

斎藤 正治()

学校 古屋 百合子

事務局

小林 町子(学校)

行政 牛山 孝友

會計 中村 栄子

丸山 なか子()

産業 池谷 敬子

岩下 久子()

福祉 飯田 みづほ

梶原 徳蔵(行政)

分会長

雑学 飯はなぜ炊くというのか

古来、芋や豆などについては、糊化したにとより、その先、炊くことにより、文化、さ
米に限って炊くという、煮る
炊く、はいすれも水力を加え
て炊熟するが、どう違うのか。
たく、という言葉は梵語の陀阿
から来ているという説がある。

漢字の「炊」は木の字をニフ並
べて、その下に火が燃え、象形で
ある。いすれにしても、水力の
あることではなく、むしろ飯
の場合には、最後の段階では水が
一滴もなくなつて「煎る」というこ
とに当る。つまり煮るというの
は、最後まで水が残る場合であ
り、炊くというのは、水力が
完全に切れてしまうことを意
味する。米は煮たのでは、豆に

編集後記

。すっさの穂も、いちばんと白
く、初秋の風にゆう水さわや
かな季節に入りよした。
会員諸氏には、治気に満ちた
日々をおすごしのことと思ひ
ます。

。四半期ごと、つまり年四回発
行する「栄養やまなし」の
創刊が大変おくれで、いま
ました。おわびします。次
号からきちっと発行できる

ようお約束します。

。創刊才一ヶ月編集、印刷となれ
ない仕事で魅力の乏しい紙面
となつてしまひました。これ
から編集部を充実し、楽しく
したためる機関紙にしていき
たいと思います。

。この小紙が、栄養士会員であ
ることの自覚と誇りを醸成し
更に情報交換の場となり、会
員相互の連繋を深くい、連帯
された責任の中で、栄養士会
を盛りあげ発展させて行こう
という意識、向場の糧となるこ
とを願つております。
ご意見をお聞かせ下さい。

